

石狩湾新港にLPG新造船「祐徳丸」が初入港しました

石狩湾新港管理組合 企画振興グループ

石狩湾新港中央埠頭は、LPG(液化石油ガス)や石油、ガソリンなどの石油製品の受け入れのほか、北海道で唯一のLNG(液化天然ガス)輸入基地があり、これらのエネルギーは内航船やパイプライン、タンクローリーなどにより北海道各地に輸送されています。

また、本港には北海道電力株式会社や北海道ガス株式会社のLNG火力発電所があり、この輸入基地のLNGを活用して電力をつくり、全道へ供給するなど、本港中央埠頭は、札幌圏のみならず、道民生活に必要なガスや電力など多様なエネルギーを供給する拠点として、重要な役割を担っています。

このような中、令和4年8月31日、共栄ライン株式会社の新造船「祐徳丸」が中央埠頭に初入港しました。

これまで使用されてきた旧 祐徳丸は、平成4年に寄航を開始して以来、同じく共栄ライン株式会社が運航する徳誉丸と共に、主に青森港からLPGを本港へ輸送してきましたが、このたび、老朽化にともないリブレイスされ、新たな内航LPGタンカー「祐徳丸」に輸送の役割のタスキを繋ぎました。

新造船「祐徳丸」は、総トン数998トン、全長69.71mと旧 祐徳丸に比べ、輸送できるLPGが100トンほど増加し、スラスターを新たに装備したことで離接岸がより安全かつスムーズに行えるようになったとともに、より大きなエンジンを搭載したことでスピードが上がり、これまでより航海時間が短縮されました。

本港では、新造船「祐徳丸」が安全にそして今後も末長く継続して活躍されることを祈願し、同日初入港記念訪船を開催しました。

記念訪船には、ENEOS グローブガスターミナル株式会社石狩ガスターミナルの西川所長、祐徳丸を運航する共栄ライン株式会社の熊澤取締役、石狩湾新港振

興会の田岡会長などの関係者にご出席をいただき、石狩湾新港管理組合 苫米地専任副管理者から歓迎の挨拶のあと、甲地船長と熊澤取締役からそれぞれ挨拶をいただき、当組合から記念の盾と花束を、石狩湾新港振興会から記念品を贈呈しました。

甲地船長からはお礼の言葉とともに「安全な航海を心がけ、これからも北海道にLPGをしっかりと届けていきます」との力強いお言葉をいただきました。

LPGは、家庭用以外にも、工業用や自動車燃料、電圧用など幅広く使用されています。さらにLPGは個別に供給可能な「分散型エネルギー」なので、都市部や郊外だけでなく、離島や山間部等の地方における重要なエネルギー源として幅広く利用されており、広大な北海道では特に重要なエネルギーであります。

北海道内で利用されているLPGは約44万トンですが、その6割にあたる28万トンが祐徳丸と徳誉丸により青森港から本港に運ばれ、全道に輸送されています。

当組合としては、北海道の生活を支えるエネルギー供給の一翼を担うこうした船舶が、今後も安全に本港を利用していただけるよう支えていきます。

●石狩湾新港におけるLPG取扱量(単位:トン) ※過去5年

	2017	2018	2019	2020	2021
LPG	287,794	287,777	277,832	262,401	277,589

●石狩湾新港における共栄ライン株式会社のLPG取扱量(単位:トン)

船名	2017	2018	2019	2020	2021
第7徳誉丸	165,793	169,724	150,904	125,394	128,384
祐徳丸	72,068	82,702	60,667	111,438	81,318
総計	237,861	252,426	211,571	236,832	209,702

※参考 北海道内LPG需要量(単位:トン)

	2015	2016	2017	2018	2019
LPG需要	433,255	447,604	447,395	438,613	422,714

北海道エネルギー関連データ(令和4年版)より



新造船「祐徳丸」



初入港記念訪船

左から
石狩湾新港振興会 田岡会長
熊澤海運株式会社 高木工務監督
共栄ライン株式会社 前河内部長代理
甲地船長及び船員
共栄ライン株式会社 熊澤取締役
苫小牧港管理組合 苫米地専任副管理者